

十四時二十分

演目解説

吉永哲郎

休憩十分

あいさつ

十五時

仕舞

観世流

弓八幡

馬野 正基

地謡

小田切亮磨
松山 隆之
角当 直隆
川口 晃平

十五時七分頃

狂言

大藏流

福の神

シテ(福の神) 山本 東次郎

アド(参詣人甲) 山本 則俊

山本 則秀

アド(参詣人乙) 若松 隆

地謡 山本 則重

水木 武郎

福の神

大晦日の夜、誘い合わせて「福の神」へ向かう二人の男、毎年欠かさずお参りをするおかげで、次第に豊かになっていくような気がすることを喜び合う。参詣し、「福は内、鬼は外」と豆を打ち囃すところへ、福の神が姿を現す。酒好きの福の神はお供えの神酒を求め、二人の熱心な参拝を褒める。そして、豊かになる秘訣は心の持ちようで、朝早く起き、人に慈悲の心を持ち、来客は常に歓迎し、夫婦の仲では腹を立てず、その上福の神に酒をたくさん供えてくれるなら、どうしたって裕福にしてやらねばならないだろう、と言つて楽しげに笑う。

休憩十五分

十五時四十分頃

能

観世流

前ツレ(女) 谷本 健吾

後ツレ(龍神) 角当 直隆

前シテ(老人) 梅若 玄祥

後シテ(弁財天)

竹生島

ワキ(廷臣) 宝生 欣哉

大鼓 柿原 弘和 太鼓 林 雄一郎

女体 ワキツレ(従臣) 大日方 寛

小鼓 鶴澤洋太郎 笛 一噌 隆之

ワキツレ(従臣) 御厨 誠吾

アイ(末社の神) 山本 則重

後見 松山 隆之

小田切康陽

鷹尾 雄紀 内藤 幸雄

地謡 山崎 友正 山崎 正道

小田切亮磨 馬野 正基

竹生島

女体

醍醐天皇に仕える廷臣が琵琶湖に浮かぶ竹生島に詣るために釣舟に便船を頼む。釣舟で漁翁(老人)と若い女と共に島に渡り、神前に着くが女人禁制と聞いていた廷臣が不審に思っていると、漁翁は島に祭る大弁財功德天は天女だから女性こそ参詣するべきだと語る。すると女は社壇の中へ、漁翁は湖へと姿を消す。やがて社殿が鳴動し、光り輝く姿の弁財天が現れ美しい舞を舞い、湖の波間から現れた龍神は金銀珠玉を廷臣に捧げ、国土を鎮める力を示す。そしてまた天女は社殿に、龍神は湖の龍宮へと去っていく。

十七時十分頃

終演予定



梅若 玄祥 うめわか げんしょう

シテ方観世流 1948年生、故55世梅若六郎の次男
父及び、祖父の故2世梅若実(人間国宝)
重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)
芸術院会員



山本 東次郎 やまもと とうじろう

狂言方大藏流 1937年生、故3世山本東次郎の長男
重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)